

第1回運営委員会（報告）

日時 2023年10月8日

場所 青森市文化会館 4階小会議室

参加者 共同代表・運営委員 14名

1、報告

2023年4月15日	県民の会結成総会 青森アスパム 参加者 41名 記念講演会 講師 澤井正子（元原子力資料情報室スタッフ）
2023年4月28日	GX法案に対する反対声明の提出
2023年5月15日	第1回共同代表者事務局会議 青森市奏海庵
2023年5月18日	県知事立候補予定者に対する公開質問状手渡し依頼
2023年5月26日	県知事立候補予定者公開質問状回答と会としての見解記者会見
2023年9月5日	第2回共同代表事務局会議 青森市市民ホールn
2023年9月8日	福島汚染水海洋放出に対する抗議文提出（各団体連名）・記者会見

2、活動・事業計画（案）

（1）知事対話集会要請と併せて、公開質問状の提出

① 青森県で「あおばな」県民対話集会を公募、県民の会として応募したが、今回は見送らせて頂きますとの回答です。

- ・他の「下北の会」「だまっちゃんおれん津軽の会」も落選。（参考）
次回の公募は12月、再度応募する。

② 県に対して公開質問・要請、対談を求めていく。

- ・8月29日の国と青森県の核燃料サイクル協議会の内容を踏まえて、対話、質問を精査する。
- ・「あおばな」対話集会はなかなか実現が難しい状況、今まで通り県知事に対して公開質問をする
とともに対面での対談を要請していく。
- ・第13回核燃料サイクル協議会の結果について（知事報告）

（これまでの知事と違う点）

- ・本県は、むつ製鉄に始まり、原子力船むつ、そして原子燃料サイクル事業の立地要請においても、地域を二分する大きな論争を経て、あるいは翻弄され続けた歴史があり、現在に至ること（いままで知事誰も言ったことがない、画期的）
- ・地域の発展を期してこれらに向き合ってきた長い年月がたった現在においても、本県の県民平均所得はは全国でワースト2位、社会資本整備や医療水準、その他の生活環境に改善の余地も大いにあること（公の場で知事が話したのは初めて）
- ・また、国や立地自治体、事業者等が一体となり、地域と原子力施設が共生していく未来像について共に考え共に築き上げていく形を作りたいと考えており、その速やかな実現に向けて、会議体の早期の設置を要請いたしました。

これに対し西村経済産業大臣からは、…地域と原子力施設の共生に向けた方策を検討する会議体を早期に設置したい。

- ・基本的には今までと同じに青森県を核のゴミ捨て場にしない、核のゴミ捨て場のように扱われることは絶対許さないことを維持しながら、政府に協力し、本事業を通じ、本県を大いに発展させていく所存である。

知事の報告から（一部抜粋）

- ・これらの内容を踏まえ、公開質問状を作成。

11月20日（11月県議会始まる）以前に提出

- ・知事との対話も要請する。

(2) 核燃料サイクル40年の大誤算の検証事業（案）

検証40年！「核燃料サイクルは白紙撤回」

—いのちと未来を守る運動の歩みと未来への提言—

① 40年史冊子の発行

- ・40年史を作成することには賛成、しかし作成には時間、労力がかかり、1年間で作成できるのかと意見もありましたが、企画委員会を作り、内容を含め十分な議論をし編集にあたる。期間も1年から2年以内とする。

なお、企画委員については共同代表に一任する。

- ・基本、40年史は広く県民にというより、これまでの運動に関わった人県内、県外も含め、反対運動の流れや核燃料サイクル施設の建設の誤りをきちんと残すということに重きをおき、推進してきた国や県、事業者にも届ける。

- ・第1回目の企画委員会は12月2日（土）予定

② 仮称「核のゴミいらない！全国フォーラム」の開催

- ・来年度は核燃料サイクル構想開始計画から40年という節目を機に原子力情報室、日弁連等全国レベル団体と共同で2024年度目途に開催を検討。
- ・2024年度は再処理工場竣工予定、むつ中間貯蔵施設稼働などの局面が予想される。
- ・福島・山口・長崎・北海道・青森を結ぶイベントの開催を検討。
- ・2024年11月9日・10日・16・17日のいずれかに設定
会場予約のためには今年11月には決定が必要。
- ・詳細については、40年史と併せて企画委員会で討議する。

(3) むつ中間貯蔵施設について

- ・8月28日、原子力規制委員会が保安規定を認可。検査や安全対策工事完了、安全協定が結ばれると形式的には搬入が可能となるため、現地活動グループと連携しながら対応を協議していく。

下北の会や4・9集会と連携し、2024年4月～6月に青森市で反対集会を。

（高レベル、再処理、福島、山口、長崎にも関わる）

- ・むつ市としては青森県に安全協定締結にむけて、RFS社および青森県と連携して準備を進めていく。オフサイトセンターを含む防災拠点や避難道路の整備等、防災安全対策の強化について国及び県に求めていく。としている。
- ・上関の中間貯蔵施設建設については東京の反対運動の人たちが中心となり、上関とのZoomでの交流が行われる。

(4) A3版リーフ「検証！核燃料サイクル40年の大誤算」の作成。

- ・学習会や街頭でのチラシ配布行動で利用する。

(5) 「核のゴミいらない！あおもり未来塾」（仮称）の開催

- ・地区、グループ、組織の要請を基本に（3）リーフを活用し、フットワークの軽い教宣スタイルを確立、講師は県民の会のメンバー等とし、経費については検討していく。
- ・各団体で企画をして下さい。

3、会員の拡大

- ・会費振込先を記載した加入申込書を前「県民の会」の会員に郵送、メールをする。
- ・その他署名協力の団体へ呼びかけを行う。
- ・ホームページでの呼びかけや「核のゴミ・・・県民の会」通信発行。
- ・結成後選挙等があり、なかなか具体的な会員拡大の取り組みが出来ていなかった。
それぞれの団体、個人で声を掛け合って拡大に取り組む。

4、財政関係

- ・ゆうちょ銀行 普通預金通帳完成

【記号】18400 【番号】 25107731

【名義】 カクノゴミカラミライヲマモルアオモリケンミンノカイ

他金融機関からの振込の場合は【店名】 八四八（ハチヨンハチ）

【預金種目】 普通預金 【口座番号】 2510773

【名義】 カクノゴミカラミライヲマモルアオモリケンミンノカイ

【2023年9月20日現在の収支報告】

- ・申込書 31 団体 4 個人 28名 （会費納入済）
- ・収入 158,087円（剰余金と会費・カンパ）
- ・支出 139,397円（解散総会・結成総会等）
- ・早急に会への加入と会費納入・カンパの依頼をする。
当初予算で会費 団体35 個人100人 を目標にしています。
上記の事業のためには会員の拡大の取組の強化が急務。

5、その他

- ・佐原若子共同代表が10月8日で共同代表を辞任したいとの申し出があり、了承。

以上